

環境産業委員会会議録

- 1 期 日 平成28年2月29日（月）
- 2 会 場 第1委員会室
- 3 開会時刻 午前 9時58分
(休憩 11:14～11:20)
- 4 閉会時刻 午後12時36分
- 5 出席者 委員長 榛葉 正樹 副委員長 雪山 敏行
委員 竹嶋 善彦 委員 鈴木 正治
委員 堀内 武治 委員 高木 敏男
委員 大石 勇 委員 大場 雄三

与 (当局側出席者) 副市長、環境経済部長、都市建設部長、環境経済部付参
都市建設部参与、所管課長ほか
(事務局出席者) 庶務係 兼堀裕之

6 審査事項

- ・議案第39号 平成27年度掛川市一般会計補正予算（第7号）について
第1条 歳入歳出予算の補正
歳入中 所管部分
歳出中 第4款 衛生費（第1項3目のうち所管部分、第2項、第3項）
第5款 労働費
第6款 農林水産業費
第7款 商工費
第8款 土木費（第3項4目のうち所管部分・第4項6目を除く）
- ・議案第44号 平成27年度掛川駅周辺施設管理特別会計補正予算（第1号）について
- ・議案第45号 平成27年度掛川市公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）について
- ・議案第46号 平成27年度掛川市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）について
- ・議案第47号 平成27年度掛川市浄化槽市町村設置推進事業特別会計補正予算（第2号）について

7 会議の概要 別紙のとおり

以上のとおり、報告いたします。

平成28年2月29日

市議会議長 竹嶋 善彦 様

環境産業委員長 榛葉 正樹

7 会議の概要

平成28年2月29日（月）午前9時58分から第1委員会室において全委員出席のもと開催。

1) 委員長あいさつ

2) 当局（副市長）あいさつ

3) 付託案件審査

①議案第39号 平成27年度掛川市一般会計補正予算（第7号）について

第1条 歳入歳出予算の補正

歳入中 所管部分

歳出中 第4款 衛生費（第1項3目のうち所管部分、第2項、第3項）

第5款 労働費

第6款 農林水産業費

第7款 商工費

第8款 土木費（第3項4目のうち所管部分、第4項6目を除く）

第4款 衛生費

〔環境政策課、説明 10:01～10:06〕

〔質疑 10:06～10:17〕

○雪山敏行副委員長

100頁に資源化物売り払い収入が減額したとの説明がありますが、収集と売り払いの費用対効果がどうなっているか、一般財源は持ち出しになっているのか伺いたい。

●鈴木久裕環境政策課長

プラ類、ペットボトルにつきましては、相当の持ち出しになっています。概ね3,000万円程度の持ち出しとなっている。

一般廃棄物の処理につきましては、一義的に市町村の責務ということでやっていますが、それをどのような形で資源に移すか、或いは、焼却処分、それから最終的には埋め立て最終処分になりますが、燃やすかにつきましては、政策的なところになります。市町村によっては、プラ類は、分別せずにそのまま燃やしているところもありますが、当市については、資源化を進めようということで分別をしています。

○雪山敏行副委員長

いろんな事業が、PDCAサイクルでやっている中で、このようなペットボトルであるとか資源物の事業を今後どのようにしていくのかという議論はみなさんの中で行われているのか。

●鈴木久裕環境政策課長

中では、コストということについて常々考えておりますが、今まで行ってきた政策の継続性ということもありますので、直ぐにチェンジするということにはなっていませんが、コストについては意識をしているところであります。

○雪山敏行副委員長

是非、事業の見直しをやらざるを得ないと思っていますので、その辺はきちっとやっていただきたい。

○堀内武治委員

見直しと言うことは、分別することを止めろという意味なのか。

○雪山敏行副委員長

分別するなと言う意味ではないですが、それをきちっと評価することは必要で、どうしたら

もう少し改善できるのかということをはきちっとP D C Aサイクルで行うと言っていますので、しっかりやっていただきたいと思います。

○堀内武治委員

基本的には、できるだけ効率的にやっていただきたいということであると思いますが、掛川市の環境行政は歴史と伝統の中で先進的に進めてきている。子ども達を含めて、ごみを分別すれば資源になりますという指導をしているものだからその基本的な考え方を見直すということは反対であるが、不必要な部分があれば効率的に行う必要はある。

○雪山敏行副委員長

自治事務か、廃出者の義務をどのように考えるのかということも考える視点で考えていただきたい。

●鈴木久裕環境政策課長

家電のリサイクルについてもそうですが、今は、消費側の負担でリサイクルをする形になっている。生産者側の負担の形になってくれば、市町村の取り扱いも変わってくるのかという感じはしておりますが、流れの中では、基本的には消費者側の負担でこのようなことを進めていることが国の流れになっている。その流れの中で、コストがなるべくかからないことを考えながらやってもらいたいと思っています。

●伊村義孝副市長

掛川市のごみ処理業者をどのように考えるかというときに、税金で対応する部分を極力減らすことを主眼にやって来ました。カンやビンとかペットボトルも資源物ですから、市が収集していますが、出来るだけ色々な方法を見つけて、直接今の古紙と同じように自治会が業者に販売して、回収する経費を減らしていくという点では、取り組みを初めていますので、これをもっと工夫して、やっていく必要があると思います。

何処まで行っても基本は分別して、資源物を有効に使うことに対して、税金の投入を減らしていくか、その相反するようなものを両立させるということで、まず古紙をやりまして、課題としては、剪定枝をそのような形で出来ないか、カンやビン、ペットボトルは資源物ですのでこれをわざわざお金を出して、それを安く売するという仕組みで無く、自治会が集めてそれを収入にするという仕組みもしっかり進めて行きたい思います。

●鈴木久裕環境政策課長

今年度各地区で、アルミ、スチールカンの自主回収ということを各地区に奨励をいたしまして、今、30地区ほど業者と直接契約を結んで市を経ずに売却代金は直接自治会収入にしていたという仕組みが出来ましたので今後も推進していきたいと思っています。

○大場雄三委員

156頁の大東大須賀地区のごみ処理量の増についてですが、大東大須賀地区の人口は減少している中で、委託料の増額はどのような要因が考えられるのか伺いたい。

●鈴木久裕環境政策課長

当初の積算時よりも大東大須賀区域は、掛川区域から比べると非常にごみの量は少ないというのが実績になっています。負担金の積算方法ということが、委託をするようになった20年度からの積算方法にも特殊な方法が菊川市との間で決められていますので、それについては、年度末にどうしても増額になりやすいような積算方法になっています。

●榛村吉宣 環境経済部長

人口が減っているということではありますが、掛川地区もそうなんですが、収集の回収ごみとそれ以外に事業系のものもありますので、企業の関係で増えてきています。

その中で、当初の見込みより少し増えていた。総トータルで比較すると100%以内では収まっています。予想では、もっと減ると見ていたもので、その差が出たということでもあります。

○鈴木正治委員

156頁の環境資源ギャラリー運営支援費ですが、今年度のごみが2.1%ほど減ったということ

ですが、これが、資源ギャラリーへの委託費への影響はどのように考えられるか、一括全部でやっていますので、企業努力によるコスト削減もあるし、そのへんの兼ね合いはどうか。

●鈴木久裕環境政策課長

環境資源ギャラリーにつきまして、巨大な設備を持っておりますのでそこで係るコスト修繕費の多い少ないで非常に左右されるところがあります。ただ、ごみ量でストレートに増えれば、薬剤とかが増えることがあります。その相関で言いますとトン当たり、5,000円から6,000円の間で増減がありますので、ごみを減らせばトン当たり薬剤費とかそういった物については、比例して減っていくことになります。

全体の設備の維持という観点では、そのごみ量が減ったからというのは、見えにくい割合にはなっております。

○榛葉正樹委員長

以上で質疑を終了する。

第4款 衛生費

第6款 農林水産業費

第8款 土木費

〔下水整備課、説明 10:18～10:21〕

〔質疑 10:21～10:27〕

○雪山敏行副委員長

156頁の施設改修費について、前払い金の支払が実績に基づいてということで、何か事業の進捗がかなり遅れてると考えてよろしいか。

●鈴木勉下水整備課長

この工事は、9月議会で契約の承認をいただきまして、計画どおり進んでおりますが、当初予算を取る時には、4割の前払い金を今年度支払う通常のどおりの予算取りをしたが実際は、今年度2割程度しか進捗率が望めないものですから4割の前払い金を今年度2割で、来年度残りの2割を支払うことにしました。進捗は、当初見込みどおりの状態で進んでいますが、前払い金の支払い方法を変えさせていただいたということです。

○雪山敏行副委員長

前払金は、基本的には、工事着手前の必要経費で行っている話だと思うが、それが事業の進捗に関連している具体的な説明があればいただきたい。

●鈴木勉下水整備課長

契約上は4割の前払いができますが、この工事は、今年度に政策とか材料の手配をしまして実際の着手は、3月からするものですから出来高ベースにしますと4割ないことから、2割程度にさせてもらうということです。

○雪山敏行副委員長

私が言っているのは、部金払いというのは当然そのような話になると思うのですが、前払い金を半額にしたという理由がよくわからないので明確な回答がいただきたい。

●鈴木勉下水整備課長

当初は、契約上の権利があることから4割を予算化したが進捗を考慮して、4割を2割として、部金的な考えで4割の権利はありますが2割にさせていただきました。

○雪山敏行副委員長

契約約款などを見て、必要なものはきちっと支払うべきだと思います。

●鈴木勉下水整備課長

契約は、今年度2割と来年度2割という形で、契約を締結をしております。予算の取り方を

4割で取ったということであります。執行を2割分でさせていただくということです。

●伊村義孝副市長

当初予算の時には、予算を4割で取ったということですがけれども課長から説明がありましたように、何月にスタートしても4割という考えなんですけれども実際は9月以降になっての契約となったものですから進捗を見ての前払いに変えたと言うことで、予算取りと進捗状況の差額が出たということです。これも契約を受けた住友重機が承知した上で契約をしたものですから市の方から払わなくてはいけないものを押さえたということではないということを課長がご説明を申し上げたしだいです

○雪山敏行副委員長

当初予算の時にそこまできちっと考えて、計上すべきではないかと考えます。

○榛葉正樹委員長

以上で質疑を終了する。

第5款 労働費

第7款 商工費

〔商工観光課、説明 10:27～10:36〕

〔質疑 10:36～10:48〕

○雪山敏行副委員長

171頁の観光振興費について、インバウンド客について話題になっておりますが、掛川市におけるインバウンド客の動向はどのようなになっているか伺いたい。

●戸塚宏五商工環境課長

当市におきましても他の市町と同じように増加傾向にあります。宿泊客についても増加傾向にあります。特に利用が伸びているのが、つま恋と花鳥園であります。

○雪山敏行副委員長

数値的に把握されているものは何かありますか。

●戸塚宏五 商工観光課長

後ほど数値的な物を提示させていただきます。

○雪山敏行副委員長

インバウンドについては、いろんな問題もあると言われておりますが、掛川市で、こまっているということはありますか。

●戸塚宏五 商工観光課長

特に大きく困っていることは聞いていませんが、一部商店街の方で、ご高齢で商売をされている方につきましては、中国語など解らない言葉で、大きい声でしゃべられるのが怖いということで、敬遠するということは聞いている。

○雪山敏行副委員長

問題はあと思うが、掛川市は多言語表示がかなり少ないと思うが、今までの補正予算とか予算の中で、取り組まなかった理由は何か伺いたい。

●戸塚宏五商工環境課長

新年度におきまして、観光協会のホームページなど多言語表示するよう予算化しております。過去につきましては、対応できなかったところもありますが、観光協会も専務理事を配置しましたので、その関係でも予算化してW i H i等の設備についても整備していく予定であります。

●榛村吉宣環境経済部長

観光協会も表示と南口に旅スタというおもてなしコーナーを設けまして、観光協会として、

英語が話せる者が2名、中国語を話せる者を1名配置して、インバウンドのお客さんに対しても英語、中国語で対応出来るよう人員配置をしているところであります。

○高木敏男委員

関連で、ホテルがなかなか取れないということで、ホテルの建設的な要望は出ているのか

●戸塚宏五商工環境課長

ホテルの客室の必要量につきましては、イベント開催時には、非常に足りない状況であると聞いております。最近エコパでアイドル歌手のコンサートが開かれたようでありますが、足りない状況で、浜松の方まで宿泊先を探したと聞いています。

建設について、これからどうするかということは商工観光課では聞いていません。

○堀内武治委員

ウイタス138の最近の経営状況は、大変に厳しいと思うがこれに対して、新しい対策とか、組合側が検討しているのか、行政として協議をすすめているか、状況報告をお願いしたい。

●大井敏行中活室長

最近のウイタス138の状況につきましては、大変厳しい状況にあります。

現状の対策としては、弥栄かけがわが運営をしている中で、早急に出来ることは何か、中長期的に出来ることは何かと言うことを整理し進めています。今の状況を申し上げますと、1日の当初目標客数は、1,300人から1,500人を想定しておりましたが、現状は1日500人程度で、売り上げにつきましても、当初1日130万円程度と予測しておりましたが、今の目標額といたしましては、1日70万円が目標になっている状況であります。早急に出来る対応、中長期的に出来る対応という中で、月1回開催していた取締役会を、2週間に1回開催し、現状分析しながら対応に当たっています。当初目標のコンセプトであったウイタス138の売りの部分は何かなんかと言うことなのですが、スーパーさんぜんとか遠鉄ストアさんとか差別化がなにかなど、お客の声を聞きますと高い、お年寄りに商品表示が小さいという声がありました。

店舗改装を11月に行いまして、11月12月と売り上げは伸びたのですが、1月2月に売り上げが落ちてきています。駐車場についても当初予定の3割程度しか稼働していない状況にあります。買い物をしていただくと30分無料の駐車券を出していますが、今、それを延ばしたらどうかなど検討している状況であります。状況報告につきましては、市、借入先、株主の方へも今の現状報告をしながら早く対応をしていくということで、弥栄の役員一同危機感を持って対応に取り組んでいる状況であります。

○堀内武治委員

大変我々も心配していますので、当面、8月のマンションが完成するまでに回復させて繋げていかなくてはいけないと思いますので努力をお願いしたい。駐車場の問題が大変大きいと思いますが、入口が解りづらく入りにくい。また、貰った駐車券を無料にするのもレジで聞かなければわからないなど駐車場も問題である。無料券を貰わなくても何分は無料になるなど、手間を掛けなくてもお客さんが入りやすい形を検討した方がよいと思いますので、会社と相談しながら行政も加わって、消費者の声を把握して、改善を図って、精一杯の努力を是非お願いし要望しておきます。

○高木敏男委員

ウイタスの社長は、仁科さんだと思うが、健康状態の心配もあったが、取締役会はしっかりなされているのか。

●大井敏行中活室長

オープン当時体調を崩されておりましたが、現在は病気も回復傾向にありまして取締役会にも出席をいただいている。

○榛葉正樹委員長

以上で質疑を終了する。

第6款 農林水産業費

〔農林課、説明 10:49～10:58〕

〔質疑 10:58～11:14〕

○竹嶋善彦委員

72頁の鳥獣対策事業について、イノシシ或いはカモシカ被害等の現状をどのように数値的に捕らえているか現状について伺う。

荒廃農地も進みお茶をやっている人たちが、何か新しい物にしていかなければと言うことで栗などを始めた人の声も聞きますと、新芽をカモシカに食べられてしまい、とてもじゃないがやれないという話が出てきまして、イノシシだけでなく、他の鳥獣被害も含めて、どのように、掌握され、今後どう対応しようとしているのか含めて伺いたい。

●岡本善英農林課長

今年度の有害鳥獣の状況は、1月31日現在、イノシシにつきましては、掛川地区で370頭、大東地区で13頭、大須賀地区で12頭、併せて395頭で、成獣がその内150頭、幼獣が245頭という状況になっています。また、南部の方では、アナグマが10頭、ハクビシンが15頭、カラスが17羽有害鳥獣で捕獲されております。数年前より農作物の被害が出ており甚大ということで、農家の方、区長の方から有害駆除を至急頼みたいという連絡があるわけですが、その対応といたしましては、猟友会の方等に至急連絡をしまして対応しているところであります。

今後につきましても、被害をこれ以上増やさないような早急に対策を取っていきたいと思っております。

○竹嶋善彦委員

被害が大きくなっている中で、猟友会のみなさんの高齢化も進みどうそこを補助し増やして行くのか、そこが少なくなっていったら対応が非常に難しくなってくるのではないかという気がする。議会でも、県の中山間地を考える会を作っていまして、掛川市も加盟をしておりますが、今回、県に対しても鳥獣被害対策をやってもらおうと要望にも行くつもりでおりますが、その中で、今まで何年も同じことを繰り返し、罾とか柵の補助くらいしか手立てをしていないわけですからもう少し真剣に取り組んでいかないと開発は進み鳥獣が山里からおりてくることを踏まえて、どう対策を国なり県なりがとるのか市がどこまで何かやることができるのかどうか農家の皆さんと一緒に、対策を取らなければいけないと思っております。

今回まちづくり協議会も出来ておりますが、その中で、山間部は鳥獣対策を項目にもうたっておりますので、その中でどう活動できるのかその辺も含めていろいろご指導をお願いしたい。

●岡本善英農林課長

市としても、県、国等へもこの有害鳥獣につきましては要望していく必要があると思っております。また、県の方でも研究していただいております。また、猟友会の高齢化も進んでいるという中で電気で止め刺しするというようなことも実用化していくということで進んでいるわけですが、課題があるようで、猟友会以外の方が、その電気で止め刺しを行うところまでいたっていないこともありますので、今後、そう言った対応等進んで行くものと思っておりますし、市としても意識して対応していきたいと思っております。

○高木敏男委員

有害鳥獣の中にカラスが入っていましたが有害鳥獣の扱いかわかります。

●岡本善英農林課長

カラスは有害鳥獣ということで、予め市の方で計画の中に入れて対応している。

○高木敏男委員

カラスが巣を作りして、地元の区長さんが市へ頼んだら有害鳥獣で無いからいじめないでくださいと逆に言われ、カラスが悪いことをするので区長もこまっている話をきいたから矛盾を感じている。

●高柳和正農林課主幹

掛川市では、有害鳥獣被害防止対策計画を作っていて、その中で対象の有害鳥獣は、イノシ

シ、ニホンジカ、アナグマ、ハクビシン、カラスの5種類であります。カラスにおきましては、南部のスイカ等農作物の被害が多く発生しまして、カラスも掛川市では有害鳥獣としています。

有害鳥獣だから何処でも駆除できるということではなくて、あくまでも緊急捕獲、いわゆる農作物等の被害が出て、J Aから150号線沿いのスイカが全てやられてしまう是非有害駆除をしてほしいという依頼を受け駆除を行っています。

○鈴木正治委員

議案書72頁の老朽ため池の整備事業について、県の採択が無くして皆減ということで減額されましたが、これは予算が無くて削減されたのか、補助対象にならないために削減されたのか、それを今後、市の単費で実施していくのか伺いたい。

●岡本善英農林課長

老朽ため池の耐震性の関係につきましては、国への要望は行いましたが最終的に国の予算が付かなかったものです。来年度の当初予算に、再度付けて、国に要望をして行く予定です。

○雪山敏行副委員長

T P P 関連ですが、連絡会議を作り対策を検討しますとのお話しでしたが、その後の状況についてどうなっているのか伺う。

●岡本善英農林課長

対策委員会につきましては、現在、要綱、委員会のメンバーが確定しましたので、3月28日に第1回の対策会議を開催する予定です。

○雪山敏行副委員長

その中で、農協が出している数字と県が出している数字の違いが話題になっていると思いますが、掛川市の影響額というのは、市独自で出す考えはあるのか伺いたい。

●岡本善英農林課長

現在は、新聞等でJ Aの出した数字と県の数字を把握しているわけですがけれども、以前T P P の時にも申し上げましたが掛川市としての状況は、ある程度把握していますけれども具体的な数字につきましては、今後もう少し数字と対策等が見えた時点で検討したいと思います。

○雪山敏行副委員長

根拠のある数字で議論していただきたいし、また早急に対策を講じなければならないことは早急をお願いしたい。その関連で、農業の整備事業は減額補正になっているが予算確保が難しい状況になっていると思うが、掛川市として、要望活動に何か特徴をもって要望をしていることはなにか、しっかりした戦略をもって要望活動をしていかなければならぬ予算が取れない状況下だと思いますがその辺何か具体策は持っているか、また、農林水産省等に陳情することもあるのかと思っておりますが、その辺の実績についても伺いたい。

●岡本善英農林課長

市としても儲かる農業、力強い農業を目指すという中で、担い手への農地中間管理事業等を活用しての集積等強く進めて、積極的に進めて行くためには是非このハード事業採択をしてくださいというようなことで、お願いをしております。また、今後も引き続き要望等をしていく予定であります。市長も関東農政局等に出向いていただき、要望しているわけですが、その中に含め要望して参りたいと思います。

○大場雄三委員

164頁の強い農業作り交付金事業の補助金が事業により2,760万円減について詳しい説明をお願いしたい。

●岡本善英農林課長

この強い農業作り交付金事業につきましては、J A 遠州夢咲が事業主体となり低コスト耐候性ハウス6棟を整備しトマト農家6人に貸し付ける事業で、国庫補助金が補助対象事業費の2分の1いただける事業です。この減額につきましては、入札執行により業者を選定するに当

たた時に事業費が減額したものです。

○大場雄三委員

162頁の耕作放棄対策事業135万円の減ということですが、耕作放棄地の近年の状況として、耕作放棄地が減ってきたからこの事業が減ったのか、それとも耕作放棄地が増えているのに事業が手詰まりでこの事業費が減になったのか状況について伺いたい。

●岡本善英農林課長

これにつきましては、耕作放棄地の現状は、解消もしているが増えている現状です。

その中で、耕作放棄地を活用して耕作をする再生面積5ヘクタールを見込んだわけですが、15件で5ヘクタールを見込んだわけですが、実績は5件で1.5ヘクタールの実績でありました。耕作放棄地を活用して、農業をする方が当初の見込みより減ったと言うことであります。

○榛葉正樹委員長

以上で質疑を終了する。

第6款 農林水産業費

〔お茶振興課、説明 11:20～11:22〕

〔質疑 11:22～11:44〕

○高木敏男委員

スタディの報告が随分前から何時かと言っているが見通しは怎么样了なっているか伺う。

●石山雅久お茶振興課参与

昨年から作成のお願いに副市長をはじめ1月には市長も東北大学の方に伺ってお願いをしてまいりました。先週も行ってお願いして、間近だとは言っているんですが、昨年からそう言ったことでなかなか何時までにやると言うような話を聞いておりません。論文作成は急いでいただきたい旨のお願いとともに、これまでの取りまとめのシンポジウム等も市民の人たちにも健康効能についてのお話しも、栗山先生だけでなしに一緒に係わった他の先生方を交えてお願いし理解をいただいている。

○大場雄三委員

関連で、掛川スタディのポスターにウエスト何センチなどの説明が入っていてわかりやすく使えると思っている。説得力があるポスターなので、もっと活用すべきだと思うがどうか

●石山雅久お茶振興課参与

ミラノ万博でも市長が健康効能のプレゼンをしていただいたときに今お話しがあったこともやっていただきました。今、掛川市は、10万人以上の都市のがんの死亡率がこれまでは男性2番だったのが男性1番、女性も1番ということで、全国で1番低い市になりましたので、そのようなことも含めて、健康効能を前面に出したお茶の効能をPRして行きたい。また、茶商の方々もこれからの売り文句としては、健康効能が良いのではないかとやっている。

○高木敏男委員

お茶のコマーシャルがペットボトルでもその方向に進んでいるので、遅れてはいけないうので出来るだけ早い時期にお願いしたい。

●石山雅久お茶振興課参与

東北大学の奥山先生に聞きますと、今、国の方から国家プロジェクトの依頼を受けていて来年の3月くらいまで手がかり遅れているとのお話しで、それに係わらず平行してやっていただくよう前から言っていて、早くやると言うことでしたが、遅くともそれ以降には必ずということで、学者の人たちの時間軸と我々の時間軸大分違うところがあって、直ぐやると言うのが我々と考え方の違う部分があります。取りまとめは助手の方がやっているの、あと少しの所まで来ているとのことであります。

○竹嶋善彦委員

茶草場農法のことで数字的な物がありますが、認証制度を採用し1つ葉、2つ葉、3つ葉という形でやられたんですが、その認証を取るために茶草を刈る場所を確保したり色々な形をやって来て現場はいるわけですが、それと高齢化という問題が重なってなかなか大変な思いをされているんですが、そのへんの認証制度がどのような状況になっているのか、これを再度また見直されたら2つ葉になってしまうとか問題がでてくると思う、また、農家もだいたい高齢化し一軒やめ、2軒やめと言うのが、現状としてあるわけですが、ボランティアの募集をして、そうした事への手助けをするような公募もしてるようだが、その辺がどこまで、何がボランティアとして手助けして貰っているのか。大変急傾斜地でありますし、大分草刈りをやっていただいてその人工の一手間になるようなことは難しいと思いますが、ボランティア活動をどう取り入れて将来、今の世界遺産を維持しようとしているのか維持できるのかどうかこの辺についてどう考えているのか伺いたい。

●石山雅久お茶振興課参与

認定制度の関係ですが、認定をされて3年経過した、28年度はその見直しになりますので全ての認定された茶草場の評価をもう一度していく、それによって多少の面積等の見直しが出るかと思っています。今後見直しして、減らして行くという事ではなくて、茶草場をやっていくことによって、環境保全に繋がるわけですので、今県も含めて認定地域を拡大していきたいという方向にはあります。ただ、言われたとおり作業が大変なので簡単には行かないですが、進めていきたい。大変さを少しづつでも緩和できるような応援制度ができて、それについて、いま言われたようなボランティアもやっております。

企業も社会貢献というかたちで、ボランティアにも非常に関心を持っていただいている。

今年度は、エコポリス協議会に入っている企業の皆さんにお願いをして半数ぐらいの企業の人たちにやっていただきました。それが、取材を通し新聞に出たことから県外の所からも問い合わせ等がありましてそう言った社会貢献も我々も考えて行きたいとお話しも聞いた。

農家の人たちも何処までの作業が出来るかと言う部分もあったものですから、新年度からどのような作業が出来るのか考えながらやって行きたいと思っている。急傾斜地の作業は、地元の人たちでも作業が危険ですので、そのような所を除いた運び出し等の作業をお願いしていくことになる。作業支援だけでなく、応援制度のなかで提言をさせていただいたのは、企業の基金を募って少しでも経費に係わる支援も含め、これから支援の作業に入って行きたいと思っています。

○竹嶋善彦委員

茶草場農法の認定制度というものは、面積とかやり方を評価したものではありますが、将来的にこれを契機に販路も拡大できるような形にという大きな目標をもって地元の人たちは取り組んでいるわけですが、茶草場農法を認定したシールを貼ることによって、販売の売り上げに貢献できているのか伺いたい。

●石山雅久お茶振興課参与

全ての販売店に聞いたわけでは無いですが、例としては、これっしか処では、かなり伸びていると聞いている。同じ商品が並んでいれば、茶草場のマークの付いたものを買っていただけると言うことは聞いている。

●伊村義孝副市長

環境価値のPRができていない部分もありまして、特に企業の話が出ましたが企業が社員食堂で使っていただくとか、三井物産の方に4月からお手伝いをいただくということで、三井物産は茶草場農法のお茶を仕入れて環境価値で売ってやっていると聞いた。

ゆくゆくは、出来れば有機無農薬というところまで行けば、三井物産の話だと海外にも直ぐこれを飲むと世界農業遺産が守れますということで大きく商売が出来ると言っている。

これまで、いろんな人の力を借りましたが実際に売っている人たちの意見を聞いてということで、今度のお茶振興計画にしっかり繁栄させて行きたいと思っています。

決まった事では無いが、草刈りのところをボランティアと言うのは、茶エンナーレがありますが私の提案として言っているのは、茶草でアートと言うことで、アートを作るために材料として茶草を刈っていただいて、それを参加者からもらう参加費とか市が主催する事業費で茶草

をアートを作る材料費として買うと言う仕組みを作って、それぞれの場所でアートを作っていたら、3、4ヶ月展示して、それを裁断して、茶草に敷くとか小屋に戻すという仕組みを作れば、ボランティアで刈ってもらおうと言うことではなくて、材料を大会の費用として出して買い上げてしまう。参考例としては、大代で毎年オブジェとして干支を作っている。

ボランティアに頼らず、楽しみながらやれる仕組み作りを考えていきたい。

●石山雅久お茶振興課参与

売上げの動向ですが、これっしか処の売り上げが、初年度と2年目に比べますと、243%の売り上げがあった。金額では、224万円が547万円 東山のいっぽく処の売り上げですが、こちらも当初は土日でしたが、認定以降は毎日開いていただいておりますが、認定前は250万円の売り上げが、認定された年は、580万ほど220%以上伸びをしてしている。

26年度は、それに9%の伸びを見せている。

○竹嶋善彦委員

茶草場の商標を使ったものは、在庫がない状況もあり、茶商の方も新年度は期待も出来るよとの話もありますので、少し現場の方へも励ましになるかなと思っている。

茶エンナーレの問題もお願いしたい。日坂地区がGAW展を計画している芸術家が来て7月23日から1ヶ月くらい行う。少なくとも1万人くらいは最低来る

芸術とお茶を含めながら、茶産地にくるので、どう茶草場を見せたり、あるいは商品を知って貰うとか、茶エンナーレと言うことを考えたら、そのようなものも含めてGAW展の実行委員会の皆さんだけでなく市としてももう少し何か違った形でそのお客を来る人達に何かをアプローチ出来ないか考えますので、その辺も含めて茶振興課としてのそういうものも何か出来たらお願いをします。

○雪山敏行副委員長

中山間地の茶業を中心にかなり厳しい状況続いてきているかと思っています。特になかなか共同の茶工場、補助金の問題と色々の形でなかなか解散できないと聞いておりますので、その辺のお茶工場の実態調査をされているのか伺いたい。

●石山雅久お茶振興課参与

今、具体的にどこがということは控えさせていただきますが、全てのお茶工が非常に厳しい状況にあることは間違いありません。その中で、補助金の絡みで解散したくても解散できないという実態もあって、補助金の縛りが解ければ解散をしたいというところも何件か聞いております。その中で、生産者の中から色々提案もいただいて、共同茶工場をさらに再編をしていきたい。或いは、てん茶の人気が出ているものですから1つのお茶工場の中でいろいろなラインを作るのは難しいものですから、小さなところで、てん茶ラインにして、そこのお茶工場は違うところに持っていくということで、それぞれ役割り分担をしてグループを組んでやっていく提案もどうかということも少しずつ話をしているが過去の経緯もありうまく進んでいない状況にあります。

○雪山敏行副委員長

その辺の実態を踏まえながら農協とかと連携をして進めて行かないと掛川の茶業の将来は無いのかなと感じがするので努力をしていただきたい。

●伊村義孝副市長

ここ何回か三井物産と話をしているが、向こうはこのようにすると売れるお茶、今、伊藤園が海外でパックでやっているが、どうやっているかというところ、お茶の中に抹茶の粉と両方入れて、さっと出るようにしているとか売れ筋からどう作った方がいいとか乾燥させるための時間を短くするために最初に葉を細かく切ってしまうとかいろんな技術を使っているんですけど、そのような話を聞いた瞬間、今のお茶工場は昔ながらのことをかたくなに守っている感じがするものですから今回のお茶振興計画で、商品の売れ筋を考えた時に遡ってどういう製造をすればいいかという茶畑にすればいいかと言うことでやりたいと言ったら協力出来るところはとっていただいていますし、今回はそのようなこともしっかり入れて、4月にはスタートするよう

目に見えるものは出来るだけ短期にやって行けたらと思っている。

○榛葉正樹委員長

以上で質疑を終了する。

第8款 土木費

〔維持管理課、説明 11:45～11:51〕

〔質疑〕なし

○榛葉正樹委員長

以上で質疑を終了する。

第8款 土木費

〔土木課、説明 11:51～11:59〕

〔質疑 11:59～12:03〕

○大石勇委員

180頁の海岸防災林強化事業の中で、800万円の減、これは盛り土工事費の減ということで、当初と延長が変わったのか

●村上将士海岸整備室室長

延長では無く、国交省からいただいている土の量が減ったということで、当初予算では、70,000立米を予定していたものが、19,500立米に減ったことから変更になったことで減額になったものです。

○雪山敏行副委員長

国からの交付金の減額ということだが、要求額に対する充当率というのは、他の市町村と比べて掛川市は劣っていると言うことはなか

●山下土木課長

内示をいただいた時に他市との状況を確認しているわけですが、掛川市が劣っているということではありません。何が違うかということと集中的に交付金が付いているものと、付きがわるいものと出ている。具体的には、耐震補強、交通安全については、付きはいい、一般の道路改良については、付きがわるい傾向はある。

○雪山敏行副委員長

他の市町村と比べてもそうだとすることで良いですね。政令市と比べてどうか

●山下土木課長

政令市との比較はだしていませんので、データを入手して、またご報告したいと思います。

○竹嶋善彦委員

182頁の歴史・文化伝承のまちづくり事業のなかで、JRとの協議がととのわずとの説明があったが、何処の事業で、その内容と経過について伺いたい。

●山下甫土木課長

この計画の中では、JR掛川駅北口広場の西側と階段しかない天浜線駅のバリアフリー化に向け通路で繋ぐにあたり、JR施設の将来計画、敷地の関係について協議を進めている。

JRの敷地を通す場合は、その部分の用地を買収しないと手が付けられない問題もありまして、その辺を現在詰めている状況であります。

○榛葉正樹委員長

以上で質疑を終了する。

第8款 土木費

〔都市政策課、説明 12:03～12:07〕

〔質疑 12:07～12:10〕

○高木敏男委員

184頁の我が家の専門診断について、診断を申請して外されたという件数はあるか

●米山治秀都市政策課建築指導室長

診断、これに伴う補強計画、工事と連動していくわけですが、工事を行う意向のある方を出来るだけ優先するという形で、診断計画も採択させていただいた、実際直接行くのは、設計事務所、診断士になりますが、診断だけは、一度行って見ておいてほしいと、で次年度に於いて直ぐにスタート出来るようにしていただきたいという形をとりました。

最初に件数にも限られますのでということも伝えてありますので、実際の待機者はわかりませんが、10件程はいるかと思います。

○大石勇委員

実際に診断をしても、古くて駄目だと言われたとか、見積もりを取ったら高いから止めたとか、問題は出てくると思うが、比率として診断を100件やったら実際何件とか実態はどのようなになっているのか伺いたい。

●米山治秀都市政策課建築指導室長

今までの補強計画をやって来ていただいた方が昨年の合計で、1,335件、耐震補強工事をやっていただいた方が、1,031件あります。次年度直ぐに行うとか数年してから行うという方もいますが、意向をもって補強計画を行う方が比較的多いものですからわりと工事はされていると思います。

○榛葉正樹委員長

以上で質疑を終了する。

〔討 論〕なし

〔採 決〕

議案第39号 平成27年度掛川市一般会計補正予算（第7号）については
全会一致にて原案とおり可決

②議案第44号 平成27年度掛川駅周辺施設管理特別会計補正予算（第1号）について

〔商工観光課、説明 12:12～12:15〕

〔質 疑 12:15～12:16〕

○大場雄三委員

119ページの使用料について、全体として増えているが、増額の大きい駐車場、減っている駐車駐輪場があれば何処か伺いたい。

●戸塚宏五商工観光課長

駐車場ですが、3箇所とも増えている。一番伸び率が多い駐車場は駅南第1駐車場であります。駐輪場につきましても、大きくは伸びておりませんが、ほぼ横ばいの利用状況であります。

○榛葉正樹委員長

以上で質疑を終了する。

〔討 論〕なし

〔採 決〕

議案第44号 平成27年度掛川駅周辺施設管理特別会計補正予算（第1号）については
全会一致にて原案とおり可決

.....

③議案第45号 平成27年度掛川市公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）について

〔下水整備課、説明 12:16～12:21〕

〔質 疑〕なし

〔討 論〕なし

〔採 決〕

議案第45号 平成27年度掛川市公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）については
全会一致にて原案とおり可決

.....

④議案第46号 平成27年度掛川市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）について

〔下水整備課、説明 12:22～12:23〕

〔質 疑〕なし

〔討 論〕なし

〔採 決〕

議案第46号 平成27年度掛川市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）については
全会一致にて原案とおり可決

.....

⑤議案第47号 平成27年度掛川市浄化槽市町村設置推進事業特別会計補正予算（第2号）について

〔下水整備課、説明 12:24～12:27〕

〔質 疑 12:27～12:36〕

○堀内武治委員

市町村設置事業については、経費が大きくなることからこれ以上は進めないという方向は聞いたが、現時点でこの事業を採択した地域毎に何年経過しているのか。また、接続事業を進めているが位置づけはどのように考えているのか地域単位毎に確認をしておきたい。

●鈴木勉下水整備課長

この事業は、今年度までに倉真、中、上垂木、東山口、原田地区が事業を終了しました。

現在、西郷、佐東地区の事業を進めています、この事業は5年間で整備をすることに成っていますので、来年度で事業が終了となります。

設置率は、倉真地区は、51.6%、中地区が、78.7%、上垂木地区は、73.9%、東山口地区は73.1%、原田地区が、55.5%でした。西郷地区は、今年度末で、55.7%、佐東地区、72.8%の予定です。

○堀内武治委員

今後の接続の働きかけや呼びかけはどうしていくのか

●鈴木勉下水整備課長

5年間で事業を終了するとこの事業では出来ません。個人設置事業としてやっていくことは出来ます。

○堀内武治委員

この事業を導入する時に在り方として、接続率を高めていくことだが、市が直接事業として行うのでは無く、一定程度の地域で組織を作って、そこに管理委託して任せてしまうという言う考えが事業の導入時に経過としてあったと思うが、今の現段階では、市が責任もってやるということになれば、この6地区を将来的にも全部管理して、古くなれば浄化槽を変えたりすることになり、かなりの業務として継続する。地域地域毎に公費投入の分はそこに投入していくやり方を考えていたと思うがそのところをどう考えるのか

●鈴木勉下水整備課長

この事業は、当初始めた時から個人浄化槽を付ける事業ですが、集合処理事業と同じ考えで公共下水道事業や農業集落排水事業と同じように使用料で賄っていく手法をとっている。

始める時に使用料を取って市が管理していくことで、始めたものだから地元で管理することは考えていない。

○堀内武治委員

あり方として、管理業務を市と同じようにやらなくても別組織を作ってやる事が出来る制度がこの事業はあると思うので、管理業務を直接市が行うのでは無く、委託か契約かは解らないが、この事業の管理について、検討研究をしていただきたい。

●伊村義孝副市長

浄化槽の点検するには有資格者がいなければならないし、場合によって業務として扱うなら、事業認可も受けなければいけないと思いますので、よく調べさせていただいて、もし、まちづくり協議会等でコミュニティービジネスとして出来るのならそれはそれで、一度整理してご報告したいと思います

○堀内武治委員

地元という言い方をしたが、特段地元にこだわらず、特定に1つの民間団体がその業務を全面的に請け負っていくやり方がより効率的ならば、掛川市が荷をしょっていくことは無いので研究して貰いたい。

○榛葉正樹委員長

以上で質疑を終了する。

〔討 論〕なし

〔採 決〕

議案第47号 平成27年度掛川市浄化槽市町村設置推進事業特別会計補正予算(第2号)については

全会一致にて原案とおり可決

4) その他 なし

5) 閉会 12:36